

山内自治振興区地域振興計画

「子どもから高齢者まで安全で安心して住める町」

はじめに

令和元年10月1日現在の山内自治振興区の人口は1628人で19歳以下が194人、20歳から64歳までが679人、65歳以上が755人で高齢化率は46%となっています。

自治振興区制度ができた平成17年の山内自治振興区の人口は2016人である当時と比較して現在388人人口が減少しました。

こうした中、地域の活力を引き出すために地域全体が一致団結し、できる努力を最大限発揮していくことが求められています。

そこでこの度、平成17年に作成された地域振興計画を進化させ、次世代に向けた地域振興計画を企画し実行していくことにしました。

地域の課題

1. 地域産業の活性化
2. おたがいさまネットの確立
3. 地域の子どもの育成
4. 地域環境の整備
5. 伝統文化の継承と創造
6. 定住の促進

1、地域産業の活性化

山内自治振興区内の現在の主要産業といえばやはり農業で、水稲、酪農、和牛飼育などが主なものとして挙げられますが、水稲経営が最も多数を占めています。

そこでその米をブランド化し、高品質な米を高価格で販売することにより、農家所得の向上を図り、モデル農家を育成、若者が農業で定住できるような環境を整え、人口の増加につなげたいと思います。

また、米を使った商品開発も行い、6次産業化を実現し、雇用の増加やそれにかかわる方々の生きがい対策などにもつなげたいと思います。

高齢化が進む中で、耕作放棄地も増加傾向にあり、耕作放棄地の活用も図ります。

2、おたがいさまネットの確立

山内自治振興区の高齢化率は令和2年2月25日現在46%で推移しており、市の平均高齢化率42%より4ポイント高くなっています。

高齢化が進む中で、全国的に亡くなくても何日も発見されない、いわゆる「孤独死」も増加しており社会的課題となっています。

また近年、豪雨による土砂災害などが頻発しており、高齢の方や、障害を持った方などが逃げ遅れて死亡するなど被災が増加しています。

山内自治振興区では「孤独死」や災害による被災者を出さないための組織「おたがいさまネット」を確立し、老人や障がい者の方などが安全で安心して暮らせるようにします。

3、地域の子どもの育成

令和2年2月現在、山内小学校の児童は59名で、令和2年度には複式学級となるクラスもできる予定で、急速に少子化が進んできています。

こうした中、「地域の子どもは地域で育てよう」という方針のもと、放課後子ども教室の開催や世代間交流などを積極的に行っていきます。

山内の歴史を子どもたちに学んでもらうための教材をつくり、地域に関する理解を深め、誇りを持てる子どもたちを育てます。

また、こうした取り組みを通して、将来この地域に愛情を持って住んでくれる子どもたちをつくります。

4、地域環境の整備

高齢化が進み、自治振興区内の竹林は繁茂し放置され、住居や道路などにかぶさるなど悪影響が出ています。また、振興区内の国道や県道脇、一級河川の土手などは行政の管理が十分でなく草が繁茂し、通学する子どもたちに教育上ふさわしくない状況となっています。そうした状況を解消する方法を講じます。

5、伝統文化の継承と創造

山内自治振興区では先人たちが創り、継承してきた伝統や文化があります。そうした良き伝統文化を継承するとともに、新しい伝統文化づくりにも取り組んでいきたいと思えます。

6、定住の促進

自治振興区制度ができた平成17年には山内自治振興区の人口が2,016人であったものが令和元年度には1,628人と388人減少しています。

特に、子どもの人口が減少しており、令和5年度の前定で山内小学校と東小学校との統合問題も起こっています。

定住を促進し、できるだけ子ども人口を増やし、学校の存続を図り地域の活性化を促していきます。

具体的施策

1 地域産業の活性化

○地域産業の主体である米をブランド化し、一般より高価格で販売することにより、生産者の収入を確保し農業の振興を図り、地域の活性化につなげていきます。

地域の邪魔者である竹を活用し、竹を粉にして堆肥と混合して竹堆肥をつくり、それを水田に散布することで、健康な良い土づくりを行い、その土で米づくりを行うことで高品質のコメを収穫し、ブランド米として販売します。

○ 販売については、自ら販売努力するとともに、庄原市内のブランド米をつくっている他の農家の方々とも協力し、庄原市、庄原農協、大学、機械メーカーなどの指導も受け、「庄原市の米」として県内外への販路を開拓します。

○ 将来は竹堆肥を使った野菜などの生産も視野に入れながら、おにぎり、寿司販売など米や野菜の6次産業化にも取り組んで雇用の増加、地域の活性化に取り組みます。

○ 高齢化により耕作放棄地が増加しており、耕作放棄地を活用した農作物の栽培などで農業の活性化を図ります。

2. おたがいさまネットの確立

○各自治会へ「おたがいさまネット」の組織を立ち上げ、自治会長を中心に民生委員、一人暮らし相談員、老人会、班長などがメンバーとなり、高齢者家庭や障がい者家庭、見守りが必要な家庭を選定し、自治会全体で孤独死などを見守る組織をつくります。

○また、災害時には高齢者や障がい者を組織的に救助する体制をつくります。

○各自治会で防災マップを作成し、住民全体で危険箇所、危険基準を共有し、災害時の避難に役立てます。

○高齢の方で自動車の運転が困難になられた方の交通手段の確保などを検討します。

○高齢者や障害者などの買い物など、生活支援を検討します。

3. 地域の子どもの育成

○「放課後子ども教室」を庄原市から委託を受け、自治振興区が運営し、地元住民が指導者となり、子どもたちを指導します。

○ 健全な子どもたちを育てるため、放課後子ども教室の指導者会議などを通し、学校と緊密な連携をとり、情報交換を行っていきます。

○ 自治振興区の様々な事業、行事（原爆慰霊祭、区民運動会、敬老会、ふるさと祭り、甲山城祭りなど）に小中学生の参加を呼びかけ、地域との交流を図ります。

○老人会と小学校、保育所などとの世代間交流を進め、地域の伝統技、行事などの継承を行っていきます。

○自治振興区内の歴史的財産（甲山城、円通寺、日吉神社など）の歴史を子どもたちに学んでもらい、地元に対し愛情と自信と誇りを持てる子どもたちを育成していきます。

- 方法の一つとして小学生にもわかりやすい歴史の本を作成し、学んでもらいます。
- 4. ○地域環境の整備地域に繁茂する迷惑竹林を各自治会で自治振興区が所有する樹木破砕機で粉碎し竹林の整備を行います。
- 通学路となっている国、県道の脇の草が繁茂し、通学の邪魔になったり見た目も教育上あまりよくないため、アダプト制度に取り組みながら整備を行います。
- 一級河川である国兼川土手の草も繁茂し、洪水災害につながる可能性もあるので、アダプト制度を活用し土手の草刈りを行います。
- 月に一回程度当番を決め、地域を巡回しながら地域住民に環境美化を啓発すると同時に、当番も巡回中に見つけたごみを回収し環境美化を行います。
- 5. 伝統文化の継承と創造
 - 山内自治振興区では先人たちが築いてきた様々な事業や行事が続いてきています。護国神社慰霊祭、区民運動会、原爆慰霊祭、敬老会、ふるさと祭り、のろし祭りなどが毎年恒例で行われてきており、区民の団結と、交流の場となっており、こうした事業を継続していきます。
 - その他、新たに後世に引き継がれるような事業を見つけ、展開をしていきます。
 - 山内自治振興区は庄原市内では唯一、一つの自治振興区に国重要文化財が 2 つあります（円通寺本堂、日吉神社の赤糸緘鎧）。また甲山城は県の史跡となっており、その他文化財がたくさんあります。そうした文化財を活用したイベントや観光客の増加を図ります。
 - それに伴うボランティアガイドの育成なども行います。
- 7. 定住の促進
 - 庄原市と協力し、自治振興区内の空き家を調査し、売却や賃貸可能な物件を探して、移住希望者に紹介し、仲介して定住人口の増加を図ります。
特に小学生や、それ以下の年齢の子どもを増やすため、子育て世代の移住を率先して進めます。
 - 広くこの取り組みを知ってもらうため、インターネット、SNSを使った情報発信や、庄原市の空き家バンクに登録するなどの広報活動も積極的に行います。
 - 空き家の家主や移住者に対する配慮も十分に行います。（てごおし隊などをつうじて）